

「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	瑞穂市	学校名	瑞穂市立中小学校			
校長名	古川 文行	対象学年	5年生	人数	34人	
活動名	人に優しい米づくり	時間数	60	時間	継続年数	10年
題材	① 自然環境（山野・河川・動物・植物・その他） ② 歴史（出来事・史跡・先人・その他） ③ 文化（芸能・芸術・民話・風習・その他） ④ 地場産業（農業・水産業・伝統工芸・その他） ⑤ 絆を深め、よりよりふるさとをつくる活動 ⑥ その他（ ）		[アイガモ農法] [] [] [アイガモ農法] [] []			
複数年継続するための工夫改善	アイガモの保護ネット張りを職員作業として位置づけるなど全職員の協力体制を整えたり、5年生から「親子ボランティア」を募り、夏休みの毎朝夕のアイガモの世話を親子の当番で行うようにしたりした。					
<p>1 ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米作りを通して、勤労の意義を感得し、自分たちを支えてくれる人々や「食」への感謝の気持ちを養う。 ・アイガモ農法を実践し、命のつながりに気付くとともに環境保全への関心を高める。 <p>2 活動の概要</p> <p>・本校では、化学肥料や農薬を使わない米作りが米を食する私たちにもふるさとの自然環境にも有益であることから、5年生児童が地域の指導者や協力者、保護者と共に、アイガモ農法による米作りに取り組んでいる。田植えをする苗も自分たちで育て、アイガモのヒナも孵化した翌日から校内で育てた。田植えの後、苗がある程度生長した頃にアイガモを田に放鳥する。田には、保護ネットを張り巡らせ、アイガモを捕食動物から守っている。昼休みにアイガモの餌と水の交換をするのがこの時期の児童の仕事である。さらに、地域の指導者から「アイガモ農法と命」の授業を受け、食物連鎖や「命をいただく」ことについて考えを深めた。秋の稲刈りも全て手作業で行い、刈り取った稲は、地域の方の協力で集まった数台の千歯こきや足踏み脱穀機を交替で使って、子どもたちの手で脱穀した。また、PTAの協力で、収穫したお米を使ったおにぎりや豚汁作りを親子活動として実施し、招待した指導者の方と共に親子で収穫の喜びを分かち合った。その後児童だけでミニおにぎりを作り、全校児童にふるまった。</p> <p>3学期には学習発表会「ふなきの会」で活動発表をし、保護者や地域の方を対象にアイガモ米を販売し、売上金の災害被災地への寄附を計画している。</p> <p>3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本活動は、瑞穂市の「みずほ環境資源組合」の「農村環境保全活動」として位置付けられており、補助金を受けている。また、11月の市の農業フェスタでアイガモ農法について展示発表をした。 ・田を泳ぐアイガモは地域の人気者で、世話をする職員や児童に地域の方が励ましの声をかけてくださることが多い。 ・「ふなきの会」に毎年地域の方を招待し、活動成果を発表したり、アイガモ米の販売を行ったりしている。 <p>4 活動による児童生徒の変容（伸長・成長等）</p> <p>収穫後の感想から、以下のような変容や成長が自覚されていることが分かる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泥だらけで働くことへの嫌悪感から、汗して働くことや仲間と共に働くことの喜びに変わった。 ・アイガモのヒナの死から命の儚さ^{はかな}とかけがえのなさを実感した。 ・当たり前感じていた「食」ということが他者の労働によって支えられていることや他の命をいただいているということに気付き、感謝の念が育った。 						